

第 69 回カロリメトリーコンファレンス (Calorimetry Conference)

第 69 回のカロリメトリーコンファレンスが 7 月 6 日から 10 日の日程で米国ニューメキシコ州、サンタフェで開催されました。後半のみでしたが、センターから中澤が参加しました。サンタフェでの開催は、2004 年、2009 年以来になります。Board メンバーになって初めて知ったのですが、カロリメトリーコンファレンスの開催には東海岸、中西部、その他の地域と、ある程度の開催の順番があるようです。アメリカ中西部での開催の際には、NIST のあるコロラド州のボルダーや、エネルギー開発や凝縮系科学の基礎研究で有名な Los Alamos 国立研究所に近いことから、最近はこのサンタフェが選ばれることが多くあります。街の治安も良くニューメキシコ州独特の文化をもつことに加え、有名な観光地で小さい街にも関わらず宿泊設備があり、大きな国際学会もしばしば開かれます。これまでは、街の中心部にある Hilton ホテルで開催されていましたが、今回は、同じ Hilton 系列の中心部から車で 30 分程郊外にでた Buffalo Thunder というリゾートホテルで行われました。山岳地帯に入る少し前の地域で、灌木の生えた乾燥した丘が続く中に、突如現れる大きな城のようなホテルで、Spa やゴルフコース、Casio、ワインバーがあるなど、いかにもアメリカとを感じるような場所です。Los Alamos の研究所から参加した研究者は、車で研究所にちょっと出かけ、翌週にマシンタイムがあるため、実験のセットアップをして戻ってくるようなことをしているとこのことで研究者の生活はどこも同じなのかもしれません。

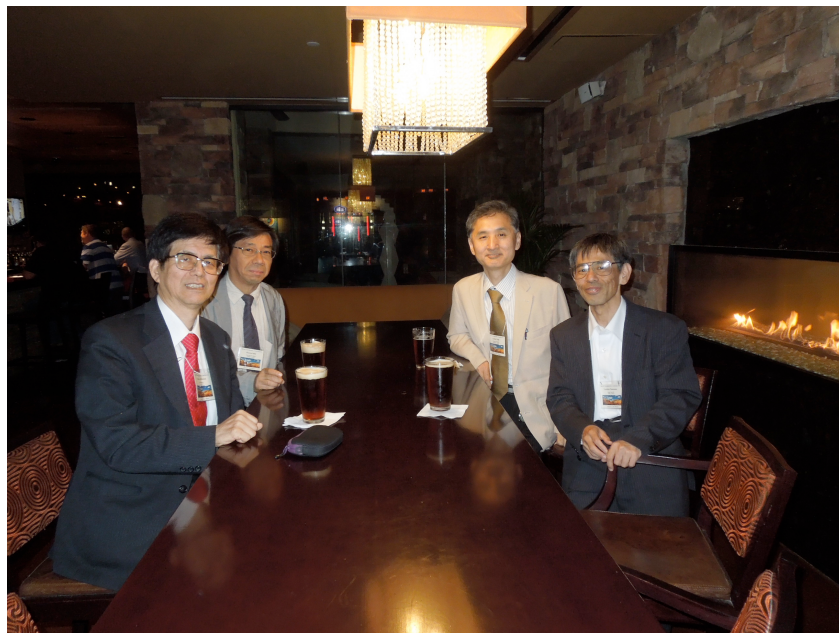
組織委員長は、サンパウロの Estadual de Campinas 大学の Watoson D. Loh 教授、プログラム Chair は Rutgers 大学の David P. Remeta 教授が前年に引き続いてお世話され、Conçeição A. S. A. Minetti 先生が事務一般をご担当されました。今年のコンファレンスは前半に低温熱測定を中心とした固体物性研究のシンポジウムがありフロリダ大学の Gregory R. Stewart 先生が主体となり招待後援者を選ばれました。講義の関係で、この日に行けなかったのが非常に残念です。超伝導の対称性や強磁場下での磁性の問題など新規な量子現象の開拓に対する熱測定の果たすべき役割は、多様であることを感じました。

会期中盤以降は、溶液、バイオカロリメトリー、データベース、さらに熱測定のさまざまな応用についての講演がありました。最終日には、この 4 月にご逝去された、ポルトガルの Porto 大学、Manuel Ribeiro da Silva 先生のメモリアルシンポジウムがありました。da Silva 先生は、ヨーロッパの大きな ThermoChemistry のグループを牽引され多くの卒業生を出されています。センターに対しても非常に理解を示してくれた方です。研究室を引きついで Maria D. M. C. Ribeiro da Silva 先生から業績と人柄のご紹介があり、Margarida Bastos 先生、

Manuel J. S. Monte 先生をはじめ多くのお弟子さんが追悼のご講演をされました。日本からは、木村会長がこのシンポジウムに招待され、キラルな分子を溶かした溶液での熱測定について精度の高い実験を紹介され、多くの聴衆の関心を集めました。シンポジウムの最後は Watoson D. Loh 先生によるナノ結晶を含むポリマーでの熱測定についてのご講演がありました。da Silva 先生の人柄からか、紹介される写真は常に多くの研究者や学生に囲まれ、笑みを絶やさないものばかりでした。

今回は、第 70 回の記念開催になり、NIST のお世話で、東海岸のワシントン D.C.で開催されることになりました。今年の熱測定学会の記念式典では、関先生が CalCon から戻られ、是非そのような発表の場を日本でも、とご努力されたと聞きました。19 回の差は短くなりませんが、本センターにとっても CalCon は非常に重要な国際会議です。実は、今回は本来なら日本と CalCon のジョイントの年でしたが、70 回の記念開催ということもありワシントン D.C.での開催となりました。次の年が、ジョイント開催になります。学生さんも含め、多くの方がご参加いただけると幸いに存じます。写真は今回の参加者で広島大戸田先生の Cristensen 賞の受賞をお祝いしたときのものです。日本からは、木村会長と齋藤先生と戸田先生に私を加え計 4 名のみの参加でしたが、全体では 80 名程度の参加者があり各分野での熱研究のトピックスが紹介されました。是非、来年の 70 周年には、センターから多くの参加者があることを期待しています。

(中澤康浩)



日本からの参加者 4 名

(左から日本の熱測定学会のメンバー木村会長，齋藤先生，戸田先生，筆者)